

何か惹かれるものを感じていた。ずっと気になっていた。そこで、行ってみることにした。目指したのは、フタバスーパーゼロミル、浅野燃糸株式会社双葉事業所である。11月4日の890号で取り上げた場所である。取り上げたはいいが、実際には行っていなかった。

明るく実にきれいな建物だった。シャレている。中に入ると、下のメッセージが目飛び込んできた。

京都には日本の昔がある 東京には日本の今がある 双葉には日本の未来がある

あの災害から12年を迎えます。3年前、私たちは初めて双葉町を訪れました。復興の旗頭である中野地区には何もなく、南隣りの中間貯蔵地におびたしい数のフレコンバッグ（除染作業で生じた土を詰めた黒い袋）だけが見渡す限り積み上げてありました。

伊澤町長は物見台に私たちを誘い、「双葉町が一番遅れている。びりなんだ」と正直に話されました。私たちは自然に涙があふれました。そして、双葉町に抱きしめられました。

浅野燃糸社長 浅野雅己

そして、「双葉中学校 復活のピアノ」が置かれてあった。会社の歴史がわかるコーナーに行ってみた。「1987年 4年在職した教員を辞め、二代目社長 浅野雅己が入社。」教員だったのか。道理で惹かれるわけだ。何度か倒産や自己破産の危機があった。浅野社長が、いよいよ自己破産を決意したことがあった。その気持ちを奥さんに伝える場所に、築地のすしざんまいを選んだ。しかし、奥さんは、その告白の前に、「おいしいね、ここのおすし。いつか社員や協力工場さんを連れて来たいね。お父さん、諦めたらダメだよ。」

その後、会社はナンバーワンからオンリーワンを目指すようになり、ブランド名「エアーかおる」とともに、V字回復を遂げる。ロゴマークのモデルは、すしざんまいで見せた奥さんの横顔だった。ただただ諦めずに夢を追い続けてきたからこそ、今の景色を見ることができた。浅野社長はそう言う。「なぜ成功したのか」その問いに、二代目社長は、「運が良かったから」としか答えない。

「運を導く7つの言葉」があった。

- 1 自省 自分の非を認める癖。
- 2 苦勞 苦勞を重ねてきた人は、慢心や見栄がなく、常に謙虚。
- 3 利他 自分の利を優先する利己主義の真逆。まずは他人の利。
- 4 夢 夢ある人には、夢ある人が運を持って集まってくる。
- 5 全力 自らの力を出し切ったところに運が降る。
- 6 和 笑う門には福来る。家庭内・会社内での和合。
- 7 感謝 あらゆることへの感謝。

(次号に続く)